

演奏会をイメージしよう！！

T . I

横浜室内合唱団は40年に近い活動の中で10回の演奏会を行ってきました。その結果、それなりのファンの方々もおられたように思います。今、計画している演奏会は13年ぶりになりますが、今回の演奏会でそうしたファンの方々にこの合唱団の存在を思い出していただき、さらに、新たなファンが加わっていただけるような演奏会にしたいものです。

ところで、私も何度か他の合唱団の演奏会に足を運んでいます。その結果、とても美しく聞き入ってしまう演奏、とても聴くに耐えない演奏がありました。しかし、とてもきれいだけれどつまらない演奏、下手なのに何か引き込まれて聴いてしまう演奏、というものもあったのです。これらのことを考えると、合唱を聴くということは、単に音だけを聴いているのではないような気がするのです。もちろん、音程、リズム、強弱・ハーモニーという表現力のスキルに非のうちどころがなければきれいな演奏にはなるでしょう。しかし、私の感じた「いい演奏」には、表現力のスキルのほかに、演奏する人とそれを聴く人の間に「何か」が存在していると思うのです。たまたま最近見ていたテレビ番組(題名のない音楽会)で、「最高の演奏とは、演奏者がこころをひとつに合わせて演奏することだ」と結んでいました。そうです。演奏する人と聴く人の間に存在していたのは、演奏者のスキルだけではない「演奏者の思いがひとつになって訴えるもの」と、それを受け止めた聴く人の「反応」、つまり「訴える力」なのではないでしょうか。表現力のスキルは高ければ高い方がいいに決まっています。しかし、「訴える力」の有無は必ずしもスキルの高さには関係しないような気がします。私が感じる「いい演奏」の条件としては、極端にはスキルは十分条件で「訴える力」の存在が必要条件ではないかと思えるのです。スキルと「訴える力」の関係は、英会話に例えると、相手に聞いてもらえる内容がないのにスキルだけが長けているとかえってその内容のなさははっきり暴露するだけ、というようなことなのではないでしょうか。私は、英会話のスキルがないのにいいたいことがあって必死になったら通じた、という経験をしています。スキルがあれば、もっと楽に、もっと正確に伝わったはずですが...

一昨年のコーラルフェストでの演奏には、何がしかの「訴える力」を感じたように思います。当時は、遅れて練習に行ったときに、思わず聞き入った(といっちはあまりにも甘いかも知れませんが)ことが何度ありました。昨年の教会での演奏会でのステージでも、聴いてくださっている方々を引き

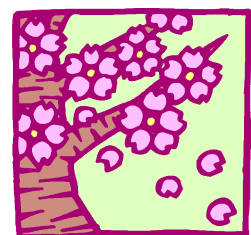
込んだ何かがあったように感じました。静かに聴いていただけたことと、拍手のニュアンスにそれを感じたのです(私の思い上がりかも知れませんが)。

今、新しい人が半数近くまで急激に増えました。このことは大変うれしいことです。しかし、そのために肝心のところをひとつにする十分な時間がとれていないことも現実のように思います。このような状況だからこそ、古い方々は、新しい方々が何を感じ、何を考えているのかに思いを巡らし、新しい方々は、この合唱団は(古くからいる人たちは)何を大切にしようとしているのかに思いを致して欲しい、と思うのです。古くからいる人たちが決して手放せない何かがあると同時に、メンバー構成が変わることによってお互いに理解し合うために必然的に変わらねばならない部分もあるということのように思います。お互いが真にお互いの立場に立った思いやりこそが、短い時間で少しでもところをひとつに近づけることができる方法なのではないでしょうか。ところをひとつといっても、生まれも育ちも違う集団がところひとつにまとまることはありえませんよね。しかし、そうした異なる背景をもつ人たちが、ひとつの曲を作りあげて演奏するという、ひとつのものに向かう何か、「まとまった思い」という「訴える力」を作り上げていくことのように思います。そして、背景の相違が大きければ大きいほど、そのまとまり、すなわち「訴える力」に迫力が出てくるようにも思います。演奏者のそうした思いをつかまえてひとつの演奏にまとめ、さらに理想的には指揮者とその受け止めた思いをまとめ直して演奏者に投げ返すことで、さらなる高次元で演奏者も指揮者も、そして聴いていただく方々にも何か良かったなという余韻が残るような演奏ができるのではないのでしょうか。それがほんの少しでもできるような合唱団でありたいと願っています。

サン・テクジュベリは「星の王子様」の中で「ほんとうの大切なものは眼にみえないんだよ」といっています。金子みすずは「星とたんぽぽ」で、「春がくるまでかくれてる、／つよいその根はめにみえぬ。／見えぬけれどもあるんだよ。／見えぬものでもあるんだよ。」と書いています。私は、いい演奏とは、音だけでは表せない、音だけでは聴けない何かがあるような気がしてなりません。この文のタイトルを「演奏会をイメージしよう!!」として、わざわざ名もない私たちの演奏会に足を運んで下さる方々に、あるいはそうした方々と、われわれはどのような満足を分かちあえるのかを、演奏会をイメージしながら考えたいと思います。

演奏会について

日時 6月28日(土) 2時半開場
場所 横浜市旭区民文化センター **サンハートホール**
(二俣川駅下車 北口から徒歩2分 二俣川ライフ5F)
曲目 第一ステージ 愛歌曲集(空 花季 大地讃頌)
第二ステージ 合唱組曲「雨」全曲
第三ステージ パレストリーナ(モテットから)
第四ステージ 合唱組曲「旅」より6曲



2008年

4月の練習計画

横浜室内合唱団

月日 時刻	4月5日(土)	4月12日(土)	4月19日(土)	4月26日(土)
4:00~4:30	パートor個人練習	パートor個人練習	パートor個人練習	パートor個人練習
4:30~4:45	腹式呼吸 発声練習	腹式呼吸 発声練習	腹式呼吸 発声練習	腹式呼吸 発声練習
4:45~5:00	混声合唱組曲「雨」	混声合唱組曲「旅」	混声合唱組曲「雨」	パレストリーナ「モテット」
5:00~5:15	「雨 雨」の歌いこみ	「旅のあとに」「行こうふたたび」仕上げ	「雨の日にみる」の歌いこみ	[Super・・・]の歌いこみ
5:15~5:30	他の曲の細部の仕上げと暗譜	他の曲のうた歌いこみと暗譜	他の曲の細部の仕上げと暗譜	混声合唱組曲「旅」
5:30~5:45	パレストリーナ「モテット」	混声合唱組曲「雨」	混声合唱組曲「旅」	全曲の細部の仕上げと暗譜
5:45~6:00	[Sicut・・・]の歌いこみ	「雨の来る前」の歌いこみ	「旅立つ日」「なぎさ歩めば」仕上げ	
6:00~6:15		他の曲の細部の仕上げと暗譜	他の曲のうた歌いこみと暗譜	
6:15~6:30	「旅」通して歌う	「花季」「浜辺の歌」 「アヴェベルムコルプス」 「大地讃頌」 「若き日の」	パレストリーナ「モテット」	「花季」「浜辺の歌」 「アヴェベルムコルプス」 「大地讃頌」 「若き日の」



左の写真は、世田谷美術館の前にあった「クヌギ」です。雄花が咲いていましたが、匂いはありませんでした。雌花が匂うのでしょうか、それとも雨が降ると匂うのでしょうか？

右の写真は、「ヤツデ」です。小さい白い花が咲きますが、すでに実になっています。

